愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

人間健康学の身体領域に関わる内容人間健康学の身体領域に関わる内容について、フィールドワーク、調査、ディスカッション、実践、データ収集、まとめる等の繰り返しすることで、学士力だけでなく、実社会で必要となるジェネリックスキル、考え方、行動力を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は、グループワークを中心とした演習形式で実施され、受講者同士での課題に関するプレゼンテーション、フィールドワーク、ディスカッション、ピアインストラクション（根拠やプロセスを教え合うこと）を積極的に取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス、論文の執筆スケジュールの確認、夏期休暇中の進捗状況の確認、面談	授業の進め方、夏期休暇中の進捗状況について確認する。	□
第2回	論文の作成（１）	論文を作成する。	□
第3回	フィールドワークの運営（１）	フィールドワークで指示を出しながら全体をスムーズに運営する。	□
第4回	論文の作成（２）	論文を作成する。	□
第5回	フィールドワークの運営（２）	フィールドワークで指示を出しながら全体をスムーズに運営する。	□
第6回	論文の作成（３）	論文を作成する。	□
第7回	フィールドワークの運営（３）	フィールドワークで指示を出しながら全体をスムーズに運営する。。	□
第8回	論文の初稿の校正	論文の初稿の校正として、教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する。	□
第9回	論文の初稿の校正	論文の初稿の校正として、教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する。	□
第10回	論文の第２稿の校正	論文の第２稿の校正として、教員、受講者より指摘をし、指摘箇所について修正する	□
第11回	論文の第２稿の校正	論文の第２稿の校正として、教員、受講者より指摘をし、指摘箇所について修正する。	□
第12回	論文の完成	論文を完成させる。	□
第13回	要旨・パワーポイント・ポスターの発表	要旨・パワーポイント・ポスターを使って発表する。	□
第14回	ゼミナール大会（１）	ゼミ内で進捗状況を発表し、受講者より意見をもらう。 コース合同の発表会、発表者を選ぶ。	□
第15回	ゼミナール大会（２）	トレーナーコース合同で進捗状況の報告を行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前事後：卒業研究に取り組む（４時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は添削・採点をしてから返却する。 全体として共通のポイントに関しては全体で共有し、個別のポイントに関しては学生個々に個別指導をする

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	1. 人間健康学の身体領域に関わる内容を理解し、問題意識を持つことができる。 2. フィールドワークにおいて問題発見、試行錯誤、創意工夫、課題解決する努力ができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

レポート（卒業論文の進捗）100%

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	酒井聡樹、これから論文を書く若者のために（究極の大改訂版）、 共立出版	
2		
3		
4		
5		